

# 2021年度 第1回 教育課程編成委員会 報告書

学校法人 センチュリー・カレッジ  
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー

# 2021年度 第1回 教育課程編成委員会 開催記録・議事録

## 理学療法学科

### 1. 日時・場所：

2021年6月16日（水） 17：30～19：00 オンライン会議

### 2. 出席者

#### (1) 教育課程編成委員

北谷 正浩（公益社団法人石川県理学療法士会 会長）

山崎 隆幸（独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院 リハビリテーション士長）

西田 好克（医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 リハビリテーション室 室長）

#### (2) 本校教職員

加藤 謙一（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）

狩山 信生（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長）

曾山 薫（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 教員）

黒田 智利（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 局長）

### 3. 欠席者

なし

[ 敬称略 ]

### 4. 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 新カリキュラム 進捗状況と今後について

#### (3) 「伝える力」についての取り組み報告

#### (4) その他

#### (5) 校長挨拶

#### (6) 閉会

### 5. 配布資料

- ・ 2021年度第1回教育課程編成委員会 パワーポイント資料 1部

### 6. 議事録

#### (1) 新カリキュラム 進捗状況と今後について（学科長 狩山）

- ・ 新設科目「理学療法管理学」講義構成と詳細な内容を説明。
- ・ 「基礎セミナーⅠ」「基礎セミナーⅡ」教育課程編成委員会の意見をもとに検討した結果、講義の順序を組み替えて内容を一部変更したことを報告。
- ・ 「キャリアデザイン学Ⅰ」「キャリアデザイン学Ⅱ」同様に講義の順序を組み替えたことを報告。

北谷委員) 第8回目の他職種連携の内容で、理学療法士協会が教育に取り組んでいる「タスクシェア」「タスクシフト」を卒前に少し触れておくことが良いと思います。法的に許容される範囲内で、また病院・施設の指針によって取り組み状況は異なりますが、それらが我々理学療法士の業務として考えるべきところがあることを、実際に現場で働く際に戸惑うことがないように教育として入れておくのが良いかもしれません。

西田委員) 私達の病院でも、「タスクシェア」「タスクシフト」の取り組みがあります。さまざまな業務の中で、誰かがしなければならない業務を、「どの職種がする業務」と垣根を作るのか、それともはつきりと役割分担を決めるのかという話し合いが進んでいます。チーム医療を円滑にどう動か

すかという意識をもって業務に参画できる人材が求められているので、学生のうちからこの内容を教育しておくことは確かに良いかもしれません。

山崎委員) 医療直接業務以外も含めて、日常業務の中でどういう業務をお互いに助け合うかという話し合いが行われていることを、これからの時代の学生には知らせておくことは良いことだと思います。

西田委員) 第8回目の他職種連携の内容に、「理学療法士と作業療法士間の連携」とありますが、言語聴覚士含めた連携を考えた方が良いと思います。当院の現場では言語聴覚士と話ができる理学療法士、作業療法士が求められています。特に摂食嚥下の連携については、言語聴覚分野の理解が必要だと感じているからです。

## (2) 「伝える力」についての取り組み報告 (教員 曾山)

- ・2018年度から3年間にわたる授業改善の取り組み「伝える力」の概要と効果の検証結果を報告。

北谷委員) 2018年度からこの取り組みを始めた経緯を教えてください。

教員曾山) 第一の目的は本校の教育理念である「感動の共有」を達成できる人材を育てることです。具体的にはプロフェッショナルとしての感動を患者様やスタッフ、関わる全ての方々と共有できる人材です。相手を気持ちも含めて理解でき、自分の考えや意志を伝えられる学生を育成したいという思いから出発しました。

北谷委員) 「伝える」ということは中堅の職員であってもなかなか難しく、現場では同職種でも、他職種でも不十分だと感じる事が多々あるので、学生の時から意識をして「伝える」ことをしていくことは大切だと思います。患者様や家族の発する言葉や見せる態度をどういう風に情緒的に捉えるか、また相手が発信するコミュニケーションをどのように感じ取るか、いわゆる「聞く力」は「伝える力」に影響を及ぼす重要な要素です。我々は対人援助職として、それを向上させるために、「なぜそのように伝えたのか、感じたのか」ということを自分自身で振り返りをする必要です。また、指導する教員においても、どういう風にフィードバックをするのか、気づいていない学生をどういう風に気づかせるのかも非常に重要です。「聞く力」を鍛えることを併せて実践していくことが「伝える力」をより向上させると思います。

## (3) その他

以下について意見やアドバイスを伺った。

- ・ 昨年の臨床実習は4ヵ月間を事実上約1ヵ月間にとどまる状況で卒業生を送り出しました。実習の経験が少ないために、現場で新人に起きている変化や問題があれば教えてください。
- ・ 今年度は学内実習を2ヵ月間予定していますが、学内でもっとこういうトレーニングをしておく方が良いと思われることがあれば教えてください。

山崎委員) コロナ禍で臨床実習が出来なかったからといって、印象的には例年との違いは個人的には感じていません。やれる人はやれますし、吸収できない人はなかなか吸収できませんし、とても個人差が大きいとみています。そもそも根本的に学べる能力を伝えていくことが大切だと思います。

西田委員) 私もそれほどの違いは感じていません。新人を受け入れる側が実習経験が少ないことに対し身構えて手厚くやっているという所もあります。過保護的ともいえますが先輩に長くついてやっているため、目立ったミスは無いものの、どの期間までにどのくらい成長しているのか、どんな風に育っていくのか、おそらくこの1年を通して結果が見えてくると思っています。

若い人は知らない人と話すこと自体が得意ではないように感じます。コロナ禍で会話をする機会が減っており、会話の糸口が掴めないため表情も暗くなりますし、焦ったり、思考停止する様子もあります。

- 北谷委員) 今年は作業療法士しか採用がなかったのですが、こちらが身構えてしまっていますが、例年とあまり変わらないという印象があります。  
コロナ禍で実習が減ったことによって、スタッフ、患者様などの同年代以外の人とコミュニケーションする機会が少なかった故に意思疎通に戸惑っている所もあるように感じます。また、新人に近況を聞くと、同期で入社した他職種と話す機会もなく、他の施設に入った同職種ともあまりコミュニケーションをとっていないと言います。コロナで直接コミュニケーションをとる場面が減ってしまったことが影響しているのだと思います。  
当院はリスクマネジメントの観点から、これまでも新人には半年程は指導者がついて患者様もあまり多く持たせないやり方をしていましたので、実習に出られなくなったということが勤めていくうえで職場でデメリットになっているかという点について、指導者側からすると大きな差はないという気はします。
- 教員曾山) 根本的に学べる力を育ててほしいというご提案をいただきましたので、学内での臨床実習では疑問点はその都度丁寧に調べ、解決する姿勢を指導していきたいと考えます。
- 西田委員) 学内実習では具体的にどのようなことしているのですか。
- 教員曾山) 今年度の臨床技能については、臨床能力試験の教科書を参考に、技術確認を進めるとともに、症例の動画に基づき観察・分析から評価項目の抽出を行ったり、評価結果を提示しそこから臨床推論を行うことを経験させています。
- 西田委員) 基本的な問題を考えたり、そこから治療プログラムをたてるという流れでしょうか。  
本当の現場の臨床実習では情報収集もカルテを書く以外にも、色々な職種の人と話す必要があります。否が応でも自分から積極的に知らない人に何かを話しかけなければならない場面、そういう経験が少しでもあると良いと思いますし、同時に現場でそういうことが実際に行われていることを実感できるような時間を学内実習で持ってもらえると良いのではないかと思います。
- 北谷委員) いろんな経験を積む機会が学内実習の中でもあれば良いのですが、この1年極めて制限された生活をせざるを得ない状況で、色々な人たちと意思疎通やコミュニケーションをとることが、最も影響があったところかもしれません。しかし、今までの学生が長けていたかと言えばそうとも限りませんし、若い人たち全般的にそういう傾向があるような印象を持っています。  
多職種連携でも関係するのですが、多職種を理解するには、自職種を顧みたり、深めたりすることが重要なことだと思います。自分の職種を他にきちんと伝えられないと連携もとれないので、いろんな方々と同職種・他職種を問わず、なぜ彼・彼女はそんな考え方をするのかというディスカッションをしながら振り返りをする機会をもってもらいたいと思います。
- 山崎委員) コロナ禍の実習で現場が変化したことがあります。出来るだけ短い時間で解決することが求められるようになったことです。学内実習では時間通りに動く、時間内にテキパキ処理する、雑談をせずに集中してやることを教えることが大切です。  
DVDを見て評価をする時、患者さんの歩行の真似をすることをしてみてください。上手な模倣ができるということは、しっかりと分析ができているということです。見て分析をするばかりではなく、身体で模倣して再現するという方法で、分析を楽しんでやる工夫があっても良いと思います。
- 学科長狩山) リアルな患者さんがいない状況の学内実習を模索しながら手探りでやっていますが、学外で1ヵ月間の臨床実習を経験した学生が比較できないほど大きく成長をして戻ってくる姿をみて、あらためて臨床実習の偉大さを感じています。先生方のご意見を具現化して、この状況をどう前向きに進めていけば良いかもっと模索していきたいと感じました。ありがとうございました。

#### (4) 校長挨拶

以上

## 作業療法学科

### 1. 日時・形式

2021年6月9日(水) 18:00～19:30 オンライン会議

### 2. 出席者

#### (1) 教育課程編成委員

東川 哲朗 (公益社団法人石川県作業療法士会 会長)

田福 智幸 (医療法人社団慈豊会 久藤総合病院 リハビリテーション科長)

中森 清孝 (医療法人社団長久会 介護老人保健施設加賀のぞみ園 リハビリ課・通所リハビリテーションセンター課長)

#### (2) 本校教職員

加藤 謙一 (専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長)

黒田 智利 (専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 局長)

種本 美雪 (専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長)

竹内 佑 (専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 副学科長代理)

### 3. 欠席者

なし

[ 敬称略 ]

### 4. 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 校長挨拶

#### (3) 伝える力の取り組みについて

#### (4) 国家試験の状況について

#### (5) 卒業生支援について

#### (6) 新カリキュラムの経過報告について

#### (7) 2021年度総合臨床実習の状況について

#### (8) 学内実習の在り方(到達度)について

#### (9) 局長挨拶

#### (10) 閉会

### 5. 配布資料

- ・2021年度第1回教育課程編成委員会 パワーポイント資料 1部

### 6. 議事録

#### (1) 校長挨拶

#### (2) 伝える力の取り組みについて [報告] (学科長 種本)

- ・2018年度から3年間にわたる授業方法の改善取り組みについて概要の説明と目標の達成度、それらの分析結果が報告された。
- ・作業療法評価学実習後、長期の実習経験を経て伝えるスキルが獲得できているのは指導者とのやり取りによって培えたものと判断できる。
- ・説明するスキルの項目が、入学後から大きく伸びているのは、ホワイトボードを用いてディスカッションをする参加型の授業を多く取り入れ、相互にコミュニケーションを図りながら授業展開をする取り組みを行った結果といえる。
- ・臨床実習や就職活動を通して明確な作業療法士像が定まり、理想像をイメージできて、しかもそれを相手に伝えることができるようになったということが分かる。

#### (3) 国家試験の状況について [報告] (学科長 種本)

- ・第56回作業療法士国家試験の結果報告がなされた。

- ・近年の合格率の推移を分析すると、現役受験者は3年制へ修業年限を変更した頃から合格率が下がっている。一方で既卒の再受験者の合格率は全国平均に対して高い。これらのことから国家試験合格率を100%にする難しさと、最近の傾向として合格に至るまでに以前より時間を必要としている印象を受ける。

(4) 卒業生支援について [報告] (学科長 種本 資料1)

- ・今年度より、卒業生の自己研鑽の後方支援を目的とした企画を卒業後1～3年目の卒業生を対象に月1回の頻度で始めていることが報告された。

(5) 新カリキュラムの経過報告について [報告] (学科長 種本)

- ・1年次課程は今年度は2年目となるため、内容を見直しブラッシュアップして実施している。
- ・2年次課程は1年目である。後期「作業療法治療学実習」と「作業療法治療学演習IV」では関連性を強く持たせながら、症例について検討・まとめる時間をこれまで以上に多く確保し、評価実習に備える内容としていることが特色である。
- ・新カリキュラムで加わった吸痰の演習と画像の評価においては、画像を用いて症例検討を進める新しい内容を盛り込んでいる。

中森委員) 授業のグループディスカッションの進行が以前より円滑になったと感じていました。率直に「伝える力」の取り組みが活かされている印象を受けました。

評価時期・方法について、作業療法学科学生の評価を理学療法学科教員が行っている意図を教えてください。

学科長種本) 入学してからの時間が長くなるにつれて、学科教員と学生との関係性が濃くなるので、評価においてそういった要素を極力排除するためです。同様に理学療法学科学生は作業療法学科教員から評価を受けます。

中森委員) 「伝える力」はコロナ禍で求められる重要なスキルではないかと思います。どれだけ素晴らしい技術を持ったとしても、ベテランになっても、どの領域においても、多職種と意見交換をする時に求められる重要なスキルだと思いますので、是非とも高めてほしいと思います。

東川委員) 「コロナ禍で実習が不十分な状態で就職した学生が実践の場面でどうか？」という話ですが、数年前前から新人を即戦力とすることが難しくなっていますし、教育や指導に濃厚に取り組んでもなかなか結果に繋がらない時世になっていますから、私の病院では例年との違いがわかりかねます。施設によって、新人がどのような扱いを受けていて、どんな苦勞をしているのか、養成校側が情報を持っているのであれば逆にお聞きしたいと思います。

教員竹内) 今年就職した19期生の一人はコロナ禍で希望分野の臨地実習がかなわず、分野を未経験で就職したので戸惑っていると話していました。

田福委員) 入職した新人が悩んでいる状況に、病院側は教育や指導などをどのように対処したらよいか悩みます。

東川委員) コロナ禍に限った話ではなく、入職後早々に退職をするケースが近年よくあります。退職する新人に話を聞くと「全然教えてくれなかった」という言葉が返ってきます。以前に比べると、とてつもなく教えているのですが、新人が「学ばない」ようになっているのです。

中森委員) 私の施設ではコロナ禍で実習が少なかった新人に対して例年との違いは感じていません。バイザーを付け、入職後3カ月間は到達目標や行動目標を立てて、私を含めた3人でフィードバックする濃厚な指導体制を敷いています。

東川委員) 国家試験についてですが、10年ほど前から受験回数を重ねるごとに合格率が下がるとデータで検証されています。

また、3年制に変わってから合格率が下がっているという感触をお持ちだという点ですが、理学療法士協会も含めて、今後、修学年数を長くする方向で働き出す方針を打ち出していますので、そういう部分も考えていく必要を感じました。

学科長種本) 卒業生支援を1~3年目の新人の方にスポットを当てたのは、自己研鑽のやり方が分からない新人や一人職場などの教育の環境に恵まれない新人を支援をしたいという想いでスタートしたからです。まだ今は悩み相談レベルではありますが、徐々に県土会の研修会参加を促したり、講習会の企画につなげていこうと考えています。

(6) 2021年度 総合臨床実習の状況について [報告] (学科長 種本)

- ・作業療法総合臨床実習Ⅰ及びⅡ…現段階でカリキュラムの75%を実施できる見通し。実習施設からPCR検査の要望があれば、学校として対応ができる体制を整えている。
- ・基礎作業療法学臨床実習Ⅱ…通所リハビリテーションでの臨床実習は感染拡大により学生の受け入れが難渋しているため、期間の短縮または時期の変更を検討している。
- ・作業療法評価学臨床実習…計画通り実施できる見通し。
- ・基礎作業療法学臨床実習Ⅰ…計画通り実施できる見通し。

(7) 学内実習の在り方 (到達度) について [検討] (学科長 種本)

- ・作業療法総合臨床実習Ⅱ…作業療法士協会のDVDを使用して残りの20日間は学内実習を行う。学内実習の具体的な進め方について説明を行った。

学科長種本) 学内実習は臨床実習に近い形で遂行できるような流れで進めたいと考えた内容です。

東川委員) 「基礎作業療法学臨床実習Ⅱ」は通所リハビリテーションになるので、時期をみて、コロナがもう少し落ち着いてからの方が良いのではないかと思います。

中森委員) 送迎前の検温や移動時の換気などはガイドラインに従って感染対策を徹底していますし、市内においてはワクチン接種1回目を終えられた利用者の方も増えてきています。利用者の家族も含めてワクチンの2回接種が完了するにはまだ時間がかかりますが、昨年よりは臨床実習を受け入れやすくなっている印象を持っています。

また、私の法人ではコロナの感染対策会議を設けて、県内の感染者指数に応じて受入れの判断をしています。

学科長種本) 現在1/3程の学生に対して実習施設を確保できていないのですが、通所リハビリテーションの臨床実習は学内実習では補うことが非常に難しいと思いますので、なんとかして経験をさせたいと考えています。年度を跨ぐことを可とする旨の通達があるので、学事等の調整などが必要ですが、時期の変更等を十分に検討して参ります。

「作業療法総合臨床実習Ⅱ」は残り20日間の学内実習を計画していますが、DVDを用いた実習についてご意見、アドバイスを伺えますか。

田福委員) 臨床実習における易しい・難しいは、予後予測と疾患ではない「個人」を対象とした部分が難しいと思います。こういった情報は経験も必要ですし、コミュニケーションでどれだけ引き出せるかが変わります。臨床現場でも同様に難しい部分ですので、まずはDVDを用いた学内実習で基礎的なところを出来るようになることが大切だと思います。

学科長種本) DVDを用いるのは同じ教材を使うので、同じ情報を教員間で共有できるメリットがありました。

教員竹内) 昨年度は各教員が自分の症例をまとめたものを使ったので、個別性や予後予測を立てやすく、学生に伝え易かったです。一方で、今年度の作業療法士協会のDVDを用いた事例は、メリットも多々ありましたが、教員も個別性を見極められないことなどが、学生に伝えるという点においては難しく、一長一短だと感じました。また、講義の中でも作業の観察ポイントのチェック項目を作って、教員側から提示しなければ受け身になる傾向が強くなり、学生が自ら学んでもらうためにはどのようにしたらよいか悩みました。

学科長種本) 養成校としてはある一定の到達度まで修得した状態で卒業させたいと思っています。即戦力にならずとも自分で理解できる力を持った学生を送り出す使命があると考えています。

中森委員) DVDは何度も見られるので、学ぶ姿勢を持った学生は何度も学習ができる利点があります。学内実習の後半にある動作分析ができていないと、なかなか即戦力にはつながりませんが、教員がポイントを提示して繰り返し学習をすれば、卒後に対象者を目の前にした時に関わり易くなると思います。  
もう一点、背景因子が重要になりますが、学内実習でもICFを活用して想像する力を十分高められると感じました。今はまだ学内実習をした学生数も多くないので、実績を積み重ねることで強化すべきポイントが見えてくるかもしれません。

田福委員) 「作業療法総合臨床実習Ⅰ」では3名が学内実習だったということですが、学生同士が情報交換して取り組んだのか、教員も混ざって取り組んだのか、どちらですか。少ない情報から、どれだけ導き出せるかという観点で学生だけで高めていく方法も面白いと思います。

学科長種本) 1名の学生は個人で、2名は一部話をしながら取り組んでいました。次回は学生同士でトライさせて相乗効果を見てみたいと思います。

東川委員) まず実習についてですが、他のパラメディカルの話聞いて感じさせられたのですが、実習に行っただけで何が一番勉強になったかという質問に、「臨床思考」という回答が圧倒的に多かったことです。手技は覚えても勤めた病院や施設によってやり方が変わるが「臨床思考」は変わらないと言うのです。「臨床思考」を学ぶこと自体は良いのですが、作業療法士協会のDVDを使うかどうかという点では、もしかしたら先生方が感じたように、先生方の事例を使って、実際の生々しさを伝えたいほうが良いのかもしれません。

到達レベルについては、私は「内容がわからなくても真似はできる」と言う模倣レベルでも良いと思います。但し、模倣レベルだということを自覚して卒業してほしいです。入職して仕事が出来れば、勉強をするしかないのですから。

動作分析については、自分たちが何を分析して診る観点として持っていて、何を専門として診ている所か、ということが作業療法学科の学生にきちんと伝えられていないのではないかと感じています。現場においても、そういうことを伝えていかなければいけないと感じていますし、きちんと教えて出来るようにしていこうと取り組んでいます。

臨床実習は意義も意味もありますし、やらなければならないことだと思います。ひとつは「臨床思考」を学ぶのですが、患者さんの声を聴き、生の反応を見て、考えた、という体験をすることです。考え方を指導者から教えてもらって学んだ後、自分が何かしらのアイデアを出して、それを実際に試してみる、そして患者さんがどう変化するのかというライブ感、もちろん指導者のサポートの下で行いますが、自分が動いた結果、人が変わったという体感、これは臨床実習でしか得られないものです。

もうひとつは「働く」ということの練習です。「働く」ことに対して体を適応させるための慣らしでもあり、仕事を体験で知ることであります。



学長種本) それぞれメリット・デメリットはありますので、これからもDVDを使うのか、昨年のように教員の症例を使うのか、学生に分かりやすいやり方を学科の中で今一度検討したいと思います。

教員竹内) 昨年度は学内実習が11週間、臨床実習は5週間と臨地での実習が非常に少なかったのですが、学生に対してアンケートをとった結果、学内実習では満足度が半分くらいだったのに対して、臨床実習は8~9割が「満足した」「作業療法士に魅力を感じた」「働きたいと思った」と回答しています。その理由はたくさんの患者さんを診れたこと、体験できたことが大半を占めました。そういった意味でも臨床実習は意義のあるものだと感じています。今後とも臨床実習を宜しく願います。

(8) 局長挨拶

以上

(記録：橋本尚子)